



村章

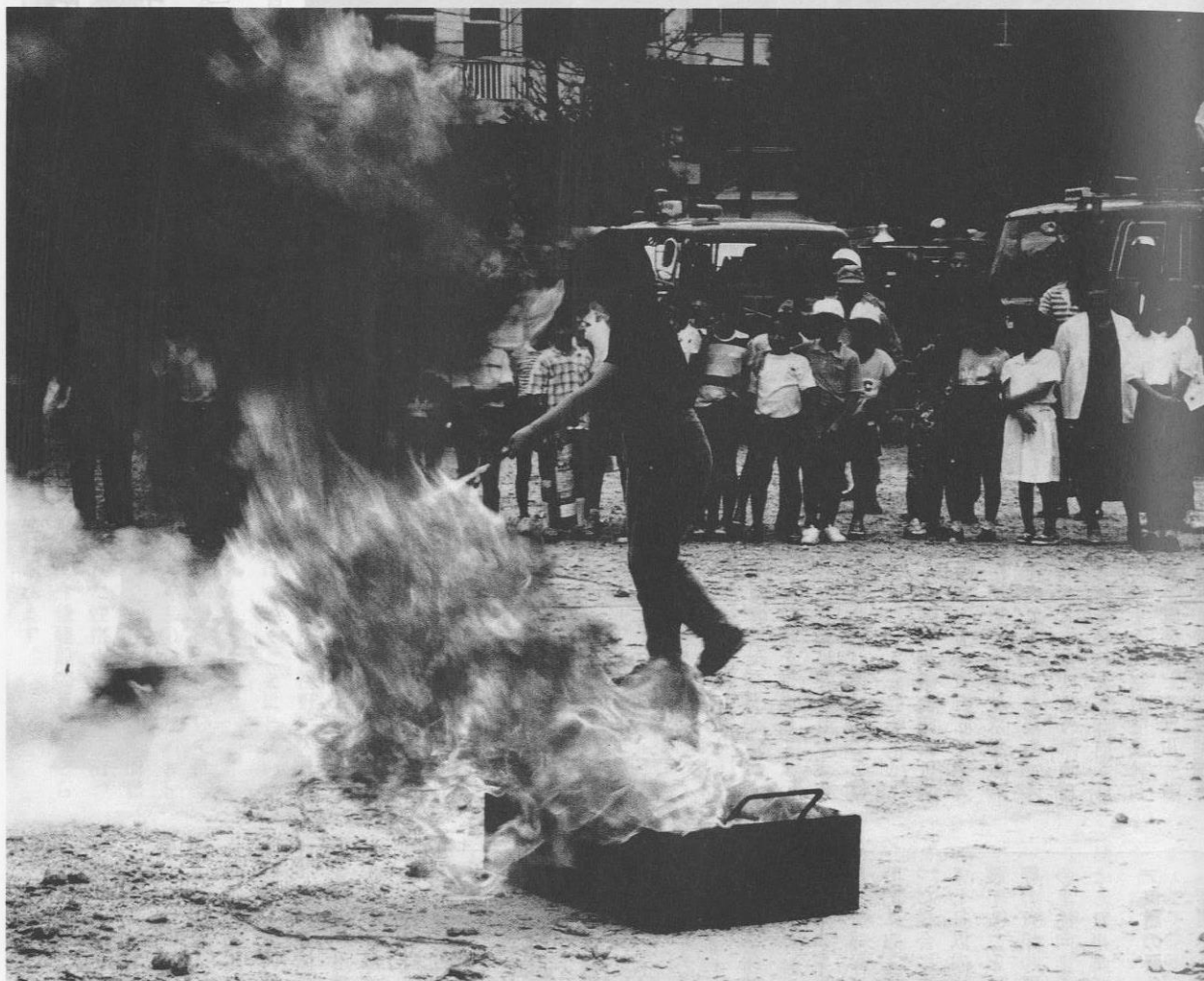
広報 なまじん

毎月1日発行

1989年

10月

No. 167



婦人の消火実演

消防救急フェア盛大に行われる

消防業務に対する理解と認識を深めていただくとうと本部町・今帰仁村消防組合の救急フェアが救急の日の九月九日と十日の両日、村コミュニティセンターで盛大に開催された。救急フェアでは婦人による消火器での消火実演やチビツ子レンジヤー隊によるロープ渡り体験など盛りだくさんの行事が行われ村民多数が参加しにぎわった。

今帰仁村の人口

平成元年 8月31日現在

世帯数

3,208

(+5)

男

4,824

(-1)

女

4,856

(-8)



村の人口 9,680(-9)



▲75歳以上の600人が参加して開かれた敬老会

80歳以上が538人も もつと長生きしてね 村敬老会 余興で楽しく、にぎやかに

おじいちゃんおばあちゃんい
つまでもお元気で

平成元年度今帰仁村敬老会(村
主催)が敬老の日の九月十五日
午後二時から村コミュニティセ
ンターホールで村内の七十五歳
以上の高齢者ら約六百人が出席
して開かれた。

あいさつに立った上間博安村
長は「もつと長生きして、その
培ってきた経験を今後の村づく
りに生かして下さい。村として
もお年寄りが幸せで豊かに暮ら
せるような行政を推進してまい
ります。」と社会に尽くした老人
に敬意を表わし、激励のことは
を述べた。

また、山城辰雄議会議長、大
城秀昭県議からも来賓として老人
を激励。湧川小中学校六年生の
吉元智子さんも「おじいちゃん
おばあちゃんありがとう」と感
謝のことは述べた。

式典の後、金城メリーさんに
よる舞踊「鷲の鳥」や湧川、兼
次、上運天、勢理客、越地婦人

会と村婦人会による余興があり、
詰め掛けた老人らは、盛んな拍
手を送り喜んでいた。
村内の百歳以上の高齢者(九
月十五日現在)は、
玉元カナさん(105歳)▽字崎山
を最高齢者に
嘉陽マツさん(103歳)▽字呉我山
上間マツさん(100歳)▽字今泊
の三人。九十九歳が渡名喜マツ
さん(字仲尾次)、当銘カミさん

(字今泊)、上間マツさん(字今泊
の三人。九十八歳が座間味ウミ
トさん(字上運天)、与那嶺マツ
さん(字崎山)、津波古充徳さん
(字湧川)、玉城マツさん(字湧
川)の四人となっており、九十
歳以上の老人が百十一人。六十
五歳以上の老人が千八百十六人
で、全人口に占める比率が十八・
八%に達している。

(シヨートステイ)

在宅老人短期保護事業を開始

「お困りのときにご利用下さい」

村ではこのほど、特別養護
老人ホーム乙羽園との契約に
より、シヨートステイ事業(県
補助)を開始することになり
ました。

疾病、出産、冠婚葬祭、事
故災害等の理由及び介護疲れ
による休養や旅行等の理由に
より一時的に自宅での介護が
できない場合を対象とします。

(イ)利用対象者

おおむね六十五歳以上の在
宅ねたきり老人等

(ウ)利用料(一日当たり)

一般世帯の場合千八百五十円
※ご利用なさりたい方は村役
場厚生課福祉係にご相談下さ
い。

(ア)保護の要件

この事業は、ねたきり老人
等を介護している家族が、一
時的に自宅で介護が困難とな
った場合に短期間(原則とし
て七日以内)、老人ホームに保
護することにより、介護家族
等の負担の軽減を図り、家族
の生活向上を図ることを目的
とした事業です。

九月十三日村教育委員会（委員長黒島直太）において、今帰仁村歴史資料館の基本構想が承認されました。基本構想の内容は、一九八九年（平成元）三月八日に今帰仁村歴史資料館設立審議委員会（委員長山内昌藤）から村教育長へ提出された「答申」に基づいて策定されたものです。基本構想は、現在計画している今帰仁村歴史資料館の基本的な考え方を示しています。そこで基本構想の目次と概要、そして歴史資料館準備室の動きを報告致します。

■基本構想の目次

はじめに

一、施設の名称

二、歴史資料館の性格とテーマ
イ、今帰仁村歴史資料館の性格

①地域に根ざした資料館

②地域の課題、村民の要求

求にちたえる資料館

ロ、歴史資料館のテーマ

1、全体テーマ

今帰仁の歴史と自然と文化

2、展示テーマ

・歴史……北山・今帰仁の歴史

史

・自然……今帰仁の自然と人

・文化……今帰仁のムラと文化

化

三、歴史資料館の規模

- 四、歴史資料館の設置場所
- 五、歴史資料館の活動
 - 1、教育普及活動
 - 2、調査及び収集活動
 - 3、研究活動
- 六、今帰仁村歴史資料館の職員むすび

■基本構想の概要

「はじめに」のところで、今帰仁村歴史資料館（以下、歴史資料館と記す）設置の目的と意義を述べています。歴史資料館は、調査・記録・資料の収集・

歴史資料館の基本構想と準備室の動き

して地域の課題、村民の要求にちたえる資料館とすることを明確にしています。村民が気軽に利用し、参加できる資料館を目指しています。資料館の活動は、社会教育の場面でもあるので村民をはじめ学校が積極的に利用できる機関としての役目も果たします。村民から今帰仁の歴史や文化などさまざまな要求があります。それにちたえる調査・研究をし、そして情報提供をしていきます。

「設置場所」については、今帰仁城跡付近を予定しています。地域から離れた場所になりますが、歴史資料館へ多くの村民が来館して下さるような企画や活動をしていく方針です。



▲歴史資料館準備室の活動風景

「歴史資料館の活動」

には、教育普及活動と資料の調査・収集活動、さらに研究活動があります。活動については、

歴史資料館準備室の動き

方の一部紹介

します。

■歴史資料館準備室の動き

全体テーマが「今帰仁の歴史と自然と文化」です。そして具体的な展示テーマが、歴史が北山・今帰仁の歴史、自然が今帰仁の自然と人、文化が今帰仁のムラと文化です。考え方として今帰仁を中心に、さらに琉球孤や東アジアなど広い視野に入れて位置づけていくことにしています。

今帰仁村歴史資料館準備室は、中央公民館の一室にあります。スタッフは、仲原弘哲（学芸員）と島袋正（臨職）と仲里千恵美（臨職）の三人です。歴史資料館の組織や機構については、今後検討されるでしょう。村内で字誌の刊行に向けて活発に動いていますので、そこへの資料や情報の提供もしています。

準備室を訪ねてこられる方々は、資料の収集や情報交換はもちろんです。それよりコーヒーが飲みたいとの声が多く聞かれます。それは、準備室のスタッフにとつてうれしいことです。コーヒーだけでなく、資料や情報や「すくみち」も準備していますので、気軽におこしください。お待ちしております。

「歴史資料館の性格」は、地域に根ざした資料館であり、そ

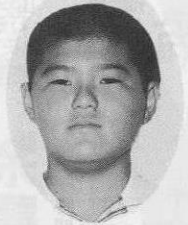
「施設の規模」については、「答申」で二〇〇〇平方メートルとされていますが、基本構想で示された性格やテーマに沿った形で、今後建設委員会でさらに検討されます。

「歴史資料館の性格」は、地域に根ざした資料館であり、その性格やテーマに沿った形で、今後建設委員会でさらに検討されます。

準備室では芭蕉布調査、小字の調査、タキヌウガンや古宇利・天底のサージャーウエーなど様々な調査をし、資料化して

（歴史資料館準備室）

少年の張 村主



「バンド部に入つて」 小学校の部優秀賞

天底小六年 与那嶺 聖 吾

四年生の時、ぼくは「何か挑戦できるものはないかなあ。」と考えていました。でも何も思いつきませんでした。

そんな時、「バンド部に入学してみろよ、練習はきついけどおもしろいよ。」とすでにバンド部に入部していた聡君から、入部を勧められました。しかし、その時、すぐには返事ができませんでした。

自分は、音符もちゃんと読めないし、リズム感もないし、練習もきつそうだし、ぼくには無理な事だと思っていたからです。それでも、バンド部のみんなが、ベレー帽をかぶり、カッコいい服そんで演奏しているのを見るたびに、ぼくもやってみたいなあと思うようになり、バンド部に入部することを決意しました。

入部テストの時は、かなり緊張して、合格するかどうか心配でした。

テストの要領は、笛で曲を一曲、二、三人パートを組んで吹くだけでしたが、指はふるえ、

胸もどきどきで合格できるとは思っていませんでした。二、三日後、先生から「合格ですよ」と言われた時は信じられませんでした。聡君が、ぼくのことを強く推せんしてくれたらしく、やっと入部することができて、飛び上がるほどうれしかったことを思い出します。

入部した頃の練習は、腹筋運動や、腹式呼吸、マウスピースでの練習が主で、楽しいと言よりは、むしろ同じことのくり返しでつまらないとさえ思うこともありました。しかし、いつしように

多くの楽器は、「チューバ」と言う一番重い楽器です。多分、先生は、体が大きいのと肺活量が多いのを見てこの楽器をさすけたのだと思います。この楽器は低い音を中心なので、いつも低いドの音を何回も何回も練習したのにぜんぜん吹けません。いつしよに入部したみんなはどんどん吹けるようになっていく

のに、なぜ、ぼくだけ吹けないんだろうとあせってしまいました。「やっぱりぼくには無理だったんだ。」やめようかと思ったことも何度かありました。でも、聡君や先生に迷わくをにかけてはいけなと考え、歯をくいしばって一日に何十回も練習を続けました。

やっと低いドの音が吹けるようになってきました。次はレの音、次はミの音と音階の練習やトレーニングなど本格的な練習へと

五年生の終わり頃、先生から、バンド部の部長になるように言われ、簡単にひきうけました。みんなをリードする事はむずかしく、やっいてけるだろうかと思つたこともありましたが、

進んでいき、四年生の八月頃から曲の練習に入りました。あまりリズム感のないぼくは、こゝでまたつまづいてばかりいました。

それでも、四年生の終わり頃には、二、三曲吹けるようになって自信がついてきました。五年生になって楽器を吹くだけでなく、吹きながら行進したり体形を変えたりするマーチングも取り入れるようになり、ますますきびしい練習が続きまし

た。去年は第一回の校内バンド部の発表会を開き、新聞にも大きくのせてもらいましたので、ますますやる気ができました。去った五月四日の海洋博記念公園での全島マーチングフェスティバルでは、多くの出場校の中からみごと優秀賞と言う、初出場にしては大きな賞をもらうことができました。

練習を続けてよかった。ぼくにとっては最高の気持ちでした。今年も、新しい部員がたくさん入部してきました。バンド部長として最後までしっかり責任を果たそうと思います。ぼくをみるとめてくれた聡君、先生、ありがとうございます。

巡回行政相談所

のお知らせ 無料・秘密

- ◆とき 10月18日(水) 13時~16時30分
- ◆ところ 今帰仁村 コミュニティセンター

国・県・市町村の仕事に対する苦情や意見・要望等がありましたら、お気軽にご相談ください。

また、政府では現在行政サービスの改善運動を実施中ですので、役所の窓口や公共施設に対するご意見がありましたら、お聞かせください。

こんなときはお気軽に

- 説明に納得できない。
- 処理がまちがっている。
- 苦情を申し出たが、その措置に納得できない。
- 多数の機関が関係している、あるいはどの役所に申し出たらいいかわからない。
- 苦情を申し出にくい。
- このようにしてほしい……など

相談担当機関等

今帰仁村、行政相談委員（西島光男）各種委員

国民と行政を結ぶホットライン

総務庁沖繩行政監察事務所では、つぎの電話で直接相談を受け付けています。(但し、夜間は留守番電話)

行政苦情電話 0988(67)1100

リーダーの役割学ぶ 村子ども会が 宿泊研修(42人が参加)



▲青年の家での宿泊研修に参加した子どもたち

活発な活動を繰り広げている村子ども会では、七月二十一日、二十二日の両日に行われた乙羽山でのジュニアリーダーキャンプ(高校生三人、中学生二十三人、育成者四人が参加)に続き、八月十九日から二十日まで名護青年の家で宿泊リーダー研修を実施。各字の小学生のリーダーら四十二人が参加した。

研修会は、友情を深めながらリーダーの役割について学び、それぞれ地元に戻って楽しく、より活発な子ども会活動を展開してもらおうと、村子ども連絡協議会(三輪茂穂会長)とタイアップして計画したもので、村教育委員会からと育成者五人が随行した。

初日はオリエンテーションに続き、開講式、役割分担の後、ハイキング、室内レクリエーション、自由交友交流、約一・五キロメートルのコースを七班に分かれて懐中電灯の明りをたよりに安全を確認しながらクイズ形式の問題を解いてゴールをめざして進んでいくナイトウォークラリーなどが行われた。

二日目も映写を見ながらリーダーの役割についてみっちりと学習した。

参加した子どもたちは、反省記録の中で集合時間に遅れたり、就寝時間になっても騒いだことなどをすなおに反省するとともに、たくさんの友達ができて楽しく有意義な研修であった。そして機会があればまた参加したいと記録している。

わあい！ぼくにもつくれるぞ！

灰皿・壺など作る 親子焼物教室

手作りの楽しさを通して親子のきずなを深めようと「夏休み親子焼物教室」村教育委員会の主催する家庭教育学級の一環が八月二十二日あはんな原工房で開かれ六十人の親子が参加して陶器づくりにチャレンジした。

指導したのは、二年半前に字仲宗根アハナ原で工房を起し、本格的に陶芸に取り組んでいる鳴原徳七、静枝さんご夫妻。

焼物教室は恒例の催しだが、最初のうち焼き物が土からできることを知らなかった子どもも土をこねながら灰皿や壺、花瓶、皿など、思いおもいの作品を熱心に作り上げた。手作りの喜びを親子で味わい、楽しい夏休みの一日を過ごしたチビっ子らは「いいものができたぞ」と満足のおうかべていた。

その日にでき上がった作品は、

▼土をこねながら作品をつくる参加者



乾燥させて九月三日に色づけして鳴原さんの窯で本焼にされた。

伊万里市少年の船一行が 今泊を訪問

子ども会と交流深める

今泊子ども会(仲原正晃会長)と佐賀県伊万里市「少年の船」一行(堀田博雄団長・百九人)の交流会が八月二十三日今泊公民館で行われた。

交流会は、九ヶ年前から今泊で光武病院を経営する同市出身の光武俊和院長の仲介によって実現したもの。大型バス二台で同区を訪れた一行はPTA関係者の案内で城跡を見学した後、福木並木の樹陰を散歩しながら交流会に望んだ。

た一行は手づくりのシークワサージュースでのどを潤し、パンやバンジローなど沖縄の味覚を堪能していた。

交流会は会長の歓迎のあいさで始まり、大城里美さんが地域を紹介し、それぞれおみやげの贈り物(子ども会から星砂、少年の船一行からは伊万里焼の風鈴)の交換などをしながら互いに方言を教えたり聞いたりしていた。また、新城千秋さんの郷土芸能の紹介につづいて「安里屋ユンタ」と「伊万里音頭」が披露された。そして最後は、み

▼交流を深める子ども会と少年の船のみなさん



んなでカチャーシーを踊り、一行もみよふまねで沖縄のリズムを楽しんだ。

なお、アドレスメッセージの交換、記念品の交換も行われた。

生涯学習で 実り多い人生を

最近、生涯学習という言葉をよく聞きます。でも、なぜわたしたちは、学校を出た後も学習する必要があるのでしょうか。登山家・今井通子さんのお話を交じえ、生涯学習について改めて考えてみました。



生涯にわたって自発的に行う学習

生涯学習とは、どんな学習のことなのでしょうか

人々が自発的な意思に基づいて、生涯にわたって行う学習を「生涯学習」といいます。現在、学歴偏重の社会的風潮を改め、現が求められています。

社会の変化への対応

いま、なぜ生涯学習が必要だといわれているのですか

きのう新しくなったことが、明日は古くなっている——最近の技術革新の進歩、国際化の進展などからも分かるように、社会の変化のサイクルはますます速くなっています。一年間に起きる社会の変化は、江戸時代のおよそ三百年間の変化に匹敵する、といわれるほどです。

このような時代に生きるわた

したちは、絶えず新しい知識や技術を身につける必要に迫られます。例えば、仕事の面を考えてみても、学生時代に身につけた知識や技術だけでは、変化の激しい仕事や新しい分野の仕事に適應していくのが難しくなってきたからです。

一方、高齢化社会への対応という側面も見落とせません。人生八十年時代”というのは、退職後、子育て後の人生が、それだけ長くなったことを意味します。

その長くなった老後を、張りのある充実したものにするためには、生涯にわたって学習し、社会の変化に取り残されないよう自分自身を育てていく必要があるのです。

学歴社会から学習社会へ

いまの学歴偏重の社会では、真剣に生涯学習に取り組んでも、それが正當に評価されないのではないのでしょうか

この夏、ある大手企業が、入社試験に提出する履歴書から、学歴欄を削除して話題になりました。学歴という「看板」が邪魔をして、面接官がいい人材を見失う危険があるといわれています。たしかに、どういう学校を出たかだけで、その人物を評価する学歴偏重の考え方は、これからの世の中、企業も行き詰まってしまうでしょう。いつ、どこ

しかし、毎日の生活、とりわけ余暇時間をただ漠然と受け身の姿勢で過ごしていたとしたら、いざ長い老後に直面したとき、何もできず、あるいは何をしたらいいのか分からず、とまど

で学んだかよりも、何をどれだけ学んだかが評価される生涯学習社会の実現が望まれるのです。しかし、仕事と学習の両立は、なかなか難しいのが現状です。そこで最近では、「有給教育訓練休暇」の制度化や「リカレント（循環）教育」の推進が望まれています。リカレント教育とは、社会人が必要に応じて学校へ戻って教育を受けるといえるものです。

あらゆる学習の機会を活用しよう

生涯学習には、具体的にどう取り組めばよいのでしょうか

少年期

変化の激しい社会では、学校で習った知識や技術が、すぐ古くなってしまふことが考えられます。そこで、学校を出た後も、

- 必要に応じて学習できるよう、少年期に次のような能力を身につけておく必要があります。
- ▼学習への意欲・態度をもつこと
- ▼学習の仕方を身につけること

学習への意欲は、知的好奇心から生まれるといわれます。そ



生涯学習のすすめ

自然界は偉大な教師

自然界は、人間にとって偉大な教師です。

生き物、つまり動物である人間も、もともと自然界の産物であって、この宇宙という大自然の一部として生きてきたのです。

生涯学習クリエイティブ・アドバイザー
今井 通子

ところが、交通の進歩とともに、人間だけが一人歩きを始めた。その結果、現代人の生活は自然界から次第に遠のいていったのです。こうした傾向は、西欧諸国の場合、早くから気づいたようですが、日本人の場合、まだ認識が甘いようです。とりわけ、都会に住む

のためにも周囲の大人は、子供たちに、自然とのふれあい、読書、幅広い友人関係、図書館・博物館などの社会教育施設の利用などを積極的にすすめ、子供の知的好奇心を伸ばしてやりたいものです。

成人

生涯学習は、自発的な意思さえあれば、だれでも身近なところ

人々は、日常生活の中で自然とふれあう機会がきわめて少ない。その結果、私たちは、動物として、あるいは人間として本来もっていた能力を、どのくらい失ってしまったことか、いま改めて考えてみるべきだと思います。

自然とふれあい 五感を磨こう

衰えつつある人間の五感

かつて農耕時代は、働くことが、すなわち自然とのかかわりを意味していました。人間は、自然界を教師として、運動能力をはじめとするさまざまな能力



の衰えです。人間は長い間、自然界の一員として、鋭敏な五感を培ってきた

三年)でも、実際にどのような方法で学習したかという問いに回答して、「本や雑誌で」と答えた人が最も多くいました。

高齢者

一般にお年寄りは、社会とのつながりが薄れ、社会や家庭内での役割が少なくなりがちです。しかし、見方を変えれば、それだけ自分の自由になる時間――

を、それぞれの発育段階で身に付けてきました。動物である人間が育つ環境として、自然は不可欠のものだったのです。ところが現在、自然とふれあう範囲が極端に狭くなっています。その結果、どういことが起こったか――その一例として挙げられるのが、いわゆる五感

ました。人間が視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚のそれぞれを、これほどまでに磨きあげることができたのは、自然界あつてのことです。というのも自然は、その空間の広さ、造形の複雑さ、雄大さ、綿密・繊細さなど、どれをとっても人工的なものをはるかに超えています。自然のふ

ところで人間は五感を養い、文化を築いてきたのです。ところが、現代人の五感の後退し始めている――これは、とりもなおさず人間としての基本的な能力が失われつつあるということなのです。自然の造形、樹木の感触、花の香り、生鮮食品の味などがもう一つよく分からない……といった子供たちの

学習する時間がたくさんあるというところでもあります。また、生きがいをもち続けるには、仲間、役割、人生の基本方針の「三点セット」が欠かせないといわれます。そのためにも、若いうちから、一生打ち込めるような趣味をもったり、地域活動に積極的に取り組んだりすることが大切です。

生涯学習でさまざまな能力の開発を

現状は、その一例にすぎません。従来、教育あるいは学習という、学校教育を中心とする知識の吸収が主でした。しかし、生涯学習に取り組もうとする場合は、単に知識の習得とか仕事上の能力向上といった部分的な能力にのみとらわれることなく、本来人間がもっていたさまざまな能力の開発に目を向けていただきたい。

私は、その一つとして、もっともつと自然界とふれあう機会を増やすことをお勧めしたい。そして五体全体に体験をさせ、五感を研ぎすまし、深みのある、実り多い人生を生きていただきたいと思ひます。

〈登山家・医師〉

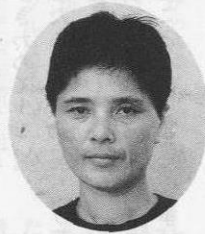
私は東京の真ん中に生まれ育ちました。その為に「土」をふむことなく育ったのです。三十年以上も前に私の通う小学校の校庭は、すでにアスファルトで固められており、ころぶととても痛く、ひざがすりむけ、赤チンキでいつも真っ赤でした。海はすぐ近くにありました。学校の屋上からいつも海をながめてはいました。けれどもそこは泳ぐことの出来ない海「東京湾」でした。それでも東京は私にとって故郷であり、心の寄りどころでした。華やかで、便利で、

夢が叶いそうな気配が身近にあり、私自身の将来の夢もまた、この街にあって東京以外の場所での生活は想像をもしたことがありませんでした。地方からあこがれを抱いてやってくる人々を見るにつけ、私はやはりここで生まれてよかったと再確認するのです。というのも、日本の中心は東京であり、一番良い所も東京だと信じてうたがわなかったのです。

そのような育ち方をした私でしたが、学校を卒業して、ある人形劇団に入り、全国の小中学校への巡回公演を重ねる旅のくらしを続けているうちに、自分の考え方が徐々に変わってゆきました。それは単に観光地を観て歩く旅ではなく、人々の生活

を見ながらの旅だったからだと思うのです。都会と違い地方では時間の流れまでがゆったりとしているのです。人形劇に拍手を送ってくれる子供達は、土によこれてはいても、その顔は生き生きと輝いていました。それとともに食べ物はその土地の風味がありました。このような地方のどっしりと大地に根づいた生活と文化にふれるたびに、私の中にあった都会志向は次第にうすれてゆきました。また、あ

北部地区 主婦の主張



した。
ところで、私のあこがれる自然の素晴らしさとはうらはらに、現在の地球環境は、はなはだしく悪化しています。ソ連で起こったチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故以降、大気や大地の放射能汚染はますます深刻さを増しています。このせまい地震列島日本にもなんと三十四基におよぶ原子力発電所があり、事故の危険性はもとより、核廃棄物はたまる一方です。また、地球をとりまくオゾン層は、私

「農」

をくらしの中心に据えて

躍的に伸びています。しかし、農業や化学肥料の大量使用はいずれ人体にも自然の生態系にも悪影響が出てくると言われています。人類の進歩と調和は常に言われ続けてきましたが、今、その調和が崩壊しつつあることに危懼の念をいだかずにはおられません。

さて、私と連れ合いの東京でのかつてのくらしは、合成洗剤や化学調味料は使わないようにしていました。添加物入りの食品は食べずに、又野菜は千葉県境でくらすのが一番だと考え、思い切って都会を出る決心をしました。しかし、二人共農家の出身でもなく、農業経験もなく、もちろん畑もありません。でも私達はやる気とあこがれをたよりに、私の両親の故郷沖繩で農業者になる為に出発しました。

村代表・崎山婦人会

伊芸 敬子

の頃はよく山歩きもしました。北アルプス、南アルプスは私に自然の偉大さをおしえてくれました。風や雲や霧、時には雪が、そして雨の中を重い荷物を背負って黙々と歩く時、山々の峰の連なりをあおぎ見る時に「充実感」がわき上がってくるのでした。親から与えられた「都会」という環境に育った私でしたが、大人になるにつれて、自らの中に芽生えてきた自然への「帰郷感」がその後の私の生き方に大きな影響を与えることになりました。

達の生活を便利にするフロンガスによって破壊が進んでいます。さらに使い捨て文化を支える紙は、大規模な森林を破壊して得られるのです。又、合成洗剤は湖、河、海を汚し続けています。そして、私達の住む農村でも又、自然破壊につながる様々な問題が起きつつあります。たとえば、農業と化学肥料、そして機械化が過酷な労働から農民を解放しました。堆肥作りは化学肥料が、除草や防虫害は農業が解決しました。機械化も進み、収入も飛

の農家から無農薬、無化学肥料の野菜を共同購入していました。なるべく安全な食べ物を手に入れる為の努力はしていましたが、子供が生まれてからは生き方も含め、より自然に近く生きる「農家」の生活にも興味を抱くようになっていました。私はその頃もずっと人形劇の仕事は続けていきましたが、連れ合いはすでに農業に関心を示し、農業関係の本を読みあさっており、私も、子育てを考えると生活と仕事が一体となって、しかも快適な環

か生活しています。経営は鶏を地面の上で飼う「平飼い」という方法での卵の生産と無農薬、無化学肥料で露地野菜を生産し、主に那覇にある「食を通して生活を考える・風と土との会」に出荷しています。この会は、作る側と食べる側が協力して運営しており、会員は生産現場をたずね堆肥作りや草取りなどの援助をし、又勉強会を開いて農業問題や環境問題を話し合い理解を深めています。ですから、一般の市場と違い、曲がったり、

保健婦室だより

お気軽にご相談を!

知っておきたい

検診用語

不揃いだったり、あるいは少々虫食いがあっても、姿形は二の次に、まず安全性を第一に考えて会の流通にのせています。そんな消費者グループがあるからこそ、私達も安心して生産活動が出来るのです。

全く農業のことに無知だった人間が思い込みで始めた「有機

農業」は今の時点では残念ながら儲かっているわけではありません。ですからプロの農家の方々に「儲かるからやりませんか？」と言えないところがよくやしいのですが、私達の「有機農業」は自給を基本にすえて安心できる食べ物を作っているという手ごたえは十分あります。そして、

医師（保健婦）に相談し、健康管理をしましょう。

◎「要医療」：検査の結果、異常と思われる点があり、医師の治療を受けて下さい。現在治療中の方は、主治医の指示に従いましょう。

◎「要観察」：今後十分注意しながら経過をみていく必要があります。生活上の注意を心がけ、定期的に検査を受け、チェックしましょう。

◎「要指導」：放っておくと、病気になるおそれがあります。

◎「異常なし」：今回の検診の範囲内では、特に異常と思われるところはありません。いつも健康に注意して毎日を送りましょう。

私達の農場には全国から、脱都会、脱サラの人、学生などが生き方を模索する為にやってきます。「自然食通信」という環境問題や有機農業を考える雑誌に紹介されていたのを読んでやって来る彼等は二カ月から三カ月の間私達と生活を共にして「有機農業」の基本を体験してゆき

検診から今のあなたの健康状態を知り、日常生活の健康管理にお役立てください。なお、一般診査、肺ガン検診、胃検診の結果は、それぞれ郵送されます。結果に疑問をおもちの方は、保健婦まで御連絡ください。



「心と体の健康」から


★疲れは健康状態のパロメーター
疲れのほとんどは、ストレス反応の限界、つまり、もうこれ以上はもたないという、生理的な赤信号なのです。疲れるからこそ、ストレスの転換や解放を考え、休むことによって身を守ろうとします。疲れは、健康のパロメーターといえるのです。

も私達の楽しい生活の一部です。地球規模の様々な問題は、そこに生きる人々が日常を見直すことから解決に向かうはず。私達の農場も「有機農業」というささやかな仕事を通して環境を考え、地域でのくらしをより豊かなものにしたいと願っています。

●消極的休養法
疲労した器官や組織の活動を休ませて、疲労の回復をまつ。



●積極的休養法
日常生活で行なっている仕事とまったくちがう活動を行なって気分転換をはかり、肉体的にもふだん使わないような部分を動かすようにする。



県内初の地熱暖房・温室完成

オランダからアンスリユームの苗を導入

運天・松当原花き生産組合

農業構造改善対策事業（農山林地域活性化緊急特別対策事業）による花き温室の建設を進めていた運天地区松当原花き生産組合（渡久山克幸組合長・組合員四人）のビニールハウスがこのほど完成。農家や地域の方々、県花き農協、今帰仁村農協、役場関係者が出席して九月一日に運天公民館で祝賀会を開いた。

祝賀会で渡久山組合長は、「今後の沖縄の農業は亜熱帯気候を活かした収益性の高い作物を取り入れる必要があると考え、補助事業導入を計画しました。関係者皆様方のご理解とご尽力によりすばらしい施設が完成しました。皆様の期待にこたえるよう組合員一同頑張ります。」とお礼と決意を述べた。

完成した施設は、

鉄骨ビニールハウス

十三棟で六千八百三

十四平方メートル。

附帯施設として遮光

暖房用の二重カーテ

ン、かん水施設のほ

か、県内では初めて

の地熱暖房装置が設

置されている。総事

業費は五千三百九十

一万八千円で財源内

訳は県補助金三千五

百九十四万五千元、

村補助金五百三十九

万円、組合負担一千

二百五十八万三千元

（内一千万円は近代

化資金を借入）。



▲完成した温室内のアンスリユームを手入れする組合員

すでにオランダから導入されたアンスリユームの苗四万一千本が定植され、来年七月から収穫が可能。ピーク時には年間●●本程度が切り花として出荷される計画。

新たな高収益の作物と栽培方法のため、地域や村内外から厚い期待が寄せられ、組合員らはぜひ成功させたいと意気込んでいる。

お知らせ 今帰仁村文化祭

11月4日(土)・5日(日)

第七回

—あなたも出品してみませんか—

「むらにくらしと文化を拓く」というテーマで今帰仁村文化祭実行委員会と教育委員会の主催する「第七回今帰仁村文化祭」が十一月四日(土)、五日(日)の両日にわたって開催されます。

これは多くの村民に作品発表の機会と鑑賞の場を提供するとともに村における衣、食、住、芸能文化の各分野にわたっての振興発展に寄与することを目的にしています。

行事を大きく分けると舞台発表部門と展示部門に分かれます。舞台発表部門では児童生徒向けの演劇や保育園児のエイサー、

各字の芸能、老人クラブのミヤークニー大会など盛りたくさん催しを計画しています。また、展示部門では、絵画、彫刻、写真、書道、陶芸、染色、民芸、盆栽、生花、農産加工、手作り料理、手作り遊具コーナーなどを計画しています。

あなたもこれから準備して展示部門に出品してはいかがでしょう。

詳細についての問合せは村教育委員会まで。

電話 五六―二六四五

二六四七

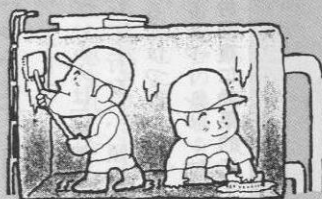
水道タンクの管理を万全に！

私達が毎日使っている水道水も、ときには思わぬ原因で汚れたりすることがあります。

特に、タンク式給水（家庭用）の場合、タンク施設の管理が不十分なため、赤い水が出たり、水の味ににおいの異常などの事故が起きたりします。

設置者のみなさん、次のようなことに留意され常に施設の適正な管理に努めましょう。

- ①タンクの掃除
タンクの掃除を1年に1回定期的に、いつも清潔な状態を保てるようにしましょう。
- ②施設の点検と改善
タンクの状態やタンクのふたなど施設の点検を行って、不備な点があれば速やかに改善しましょう。



沖永良部 知名町の青年らが来村

歴史を学び村青年会員と交流



▲中央公民館中庭での交流会風景

公民館中庭で村青年会員らと交流した。

交流会は、島の統治者・沖永良部世主が北山王^{ハニノ}・第二子であるとの伝説があることから、沖永良部の青年リーダーらが自分たちの文化の源流を探ろうと「沖縄史跡めぐり研修団」を組織して来沖したのを機に行われた。一行を湧川青年会（仲宗根宗和会長）の勇壮なエイサーで歓迎して始まった交流会で若者らは、バーベキューをしたり、酒を酌み交わしながら夜遅くまで、それぞれの文化や産業、村興しなどについて和やかに交歓した。

なお、沖永良部の一行から「おもしろさうしと沖永良部」とタイトルをついたビデオテープが村教育委員会に贈られた。

第5回 やんばるの産業まつり

日程決まる 10月20日(金)から22日(日)

地域の皆様のご来場、ご観覧をよびかけます

お問い合わせ先・北部振興会事務局（電話五二一二四四八）

区民が融和を図り ここちよい汗流す

一字平敷区民運動会



▲区民が二組に分かれてヨイショ、ヨイショ

子どもたちを激励するとともに区民の健康を増進しようとして宇平敷（石嶺常雄区長）の区民運動会がこのほど村営グラウンドで行われた。

開会式で石嶺大会長（区長）のあいさつ、伊集一隆助役の激励のあいさつにつづき、上間大樹くん、古堅恵美さん（兩人とも今小六年）の二人による力強い選手宣誓が行われ、全員がラジオ体操で体をほぐした。

運動会では幼児、児童によるかけっこ、班対抗の俵運び、親子リレー、パン食競争、壮年者によるスウェーデンリレー、老人婦人による踊り、綱引きなどが行われた。

熱い日差しの下で区民らは、各種目にあたって熱戦を展開、県道本部循環線の道上（南側）、道下（北側）に分かれて行われた綱引きには全員が参加して全力をつくし心よい汗を流した。

和気あふむ汗流す

越地第四回区民運動会

宇越地の「第四回区民大運動会」が八月二十七日、村総合運動公園ホッケー場で区民の親睦を図るとともに各団体の活動を活性化させ、字の発展に結びつけようとの目的で開催された。

エティーに豊んだ十五種目にあたって楽しい競技が繰り広げられ、さわやかに気持ちの良い汗を流し、親子の絆を培い区民の融和を図った。

開会式で、参加した約三百人の区民を前に島袋松助区長は「楽しくなごやかな運動会にしよう」とあいさつ。宇行政に対する理解と協力を呼びかけた。運動会は、青々とした芝の上で幼児のかけっこや二人三脚リレー、ミシゲーをラケット変わりにしたスプーンリレー、親子リレー、オッカー達の血圧は？（風船割りリレー）、などバラ

▼芝の上をおもいっきり走る子どもたち



10月

神無月



1989年

●村民カレンダー

10月1日		17日 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン 19:30~21:00)
2月	○ことばの教室 (コミセン 13:00~17:00) ○住民検診 (玉城・呉我山)	18日 水	○心配ごと相談 (コミセン 13:00~17:00) ○巡回行政相談 (コミセン 13:00~16:30) ○リハビリ (13:30~15:30)
3日 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン 19:30~21:00) ○住民検診 (湧川)	19日 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○DPT予防接種
4日 水	○心配ごと相談 (コミセン 13:00~17:00) ○行政相談 (コミセン 13:00~17:00) ○住民検診 (天底・勢理客)	20日 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○1歳6ヶ月健診 (コミセン 13:00~14:00)
5日 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○住民検診 (上運天・勢理客)	21日 土	○おもちゃ図書館 (コミセン 9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
6日 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○住民検診 (役場)	22日 日	○老人婦人スポーツ大会
7日 土	○おもちゃ図書館 (コミセン 9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)	23日 月	○ことばの教室 (コミセン 13:00~17:00)
8日 日	○第44回村陸上競技大会	24日 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン 19:30~21:00)
9日 月	○ことばの教室 (コミセン 13:00~17:00)	25日 水	○心配ごと相談 (コミセン 13:00~17:00) ○行政相談 (コミセン 13:00~17:00)
10日 火	○体育の日	26日 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
11日 水	○リハビリテーション (コミセン 13:00~15:00) ○心配ごと相談 (コミセン 13:00~17:00) ○行政相談 (コミセン 13:00~17:00) ○住民検診 (古字利)	27日 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○母子推進員定例会 (コミセン 14:00~16:00)
12日 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○住民検診 (渡喜仁)	28日 土	○おもちゃ図書館 (コミセン 9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
13日 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○住民検診 (仲宗根)	29日 日	
14日 土	○おもちゃ図書館 (コミセン 9:00~12:00) ○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)	30日 月	○ことばの教室 (コミセン 13:00~17:00)
15日 日		31日 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン 19:30~21:00) ○デイケア
16日 月	○3歳児健診 (コミセン 13:00~14:00) ○ことばの教室 (コミセン 13:00~17:00)	11月1日 水	○心配ごと相談 (コミセン 13:00~17:00) ○行政相談 (コミセン 13:00~17:00)

役場の電話番号

社協	4742	総務課	2101
コミセン		住民課	2102
厚生課	4397	税務納課室	2105
議会	4398	企画財政課	2255
水道課		建設課	
教育委員会	2645	経済課	2256
	2647	農業委員会	

■ 広報十月号をどうにか皆様に届けることができそう。暑さ寒さも彼岸までといわれるが、例年この時期、我が県ではまだまだ残暑が厳しい。しかし、今年 はたてつづけに発生した19、20、21、22号の台風が雨とともに涼しさを運んで来た。そのせいか、かなりしのぎやすく、しかも庭先の柿の実も色付き、道端では揺れるススキの銀色の穂並がみれるようになり、幾分秋の訪れが早いような気がする。

■ この広報が皆様に届く頃には日差しもだいぶやわらぎ、「天高く馬肥ゆる秋」、「体育の秋」、「食欲の秋」がやって来る。

■ 季節の移り目に気を付けたいのは寝冷え。カゼをひかないように気を付けたいもの。

編集後記